

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：25501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24730394

研究課題名(和文) 保険者機能の観点からみた時間ベースの病院原価計算の適用可能性

研究課題名(英文) The Applicability of the Time-Driven Costing for Health Care Organizations

研究代表者

足立 俊輔 (ADACHI, Shunsuke)

下関市立大学・経済学部・准教授

研究者番号：30615117

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円、(間接経費) 270,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、米国の保険者機能の強化を背景とした病院原価計算の発展を、計算原理の精緻化の側面と計算合理性の側面から整理することで、医療の質とコストのバランスを考慮する価値重視の病院経営を支援する時間主導型の病院原価計算の有用性について明らかにすることを目的としたものである。

本研究では、保険者機能が強化されるなかで提唱された価値重視の病院経営において、時間主導型活動基準原価計算(TDABC)や相対価値尺度法(RVU法)といった時間主導型の病院原価計算を用いて医療提供者と病院経営者に共通の情報基盤(common information platform)を構築する必要性があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research clarifies the utility of the Time-Driven Costing for health care organizations under the influence of the insurer function in the United States. To clarify it, this research considers the development of the hospital cost accounting from the side of calculation principle and ratio nality.

In conclusion, the health care systems should recognize the necessity of constructing the Value-Based Management using a common information infrastructure, which is calculated by the Time-Driven Costing like the Time-Driven Activity-Based Costing (TDABC) and the Relative Value Unit (RVU) method.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：会計学 管理会計 原価計算 医療経営 保険者機能 TDABC RVU法 フランス会計

1. 研究開始当初の背景

病院原価計算の実施を想定した場合、原価計算に係る導入コストおよび運用コストの側面から課題が存在する。実際に活動基準原価計算(ABC)を病院で行う場合、データ更新に係るインタビュー調査など莫大な時間とコストを消費することに加え、システムの適用範囲が限定的なものになってしまう。

そこでキャプラン=アンダーソンは「時間主導型ABC(TDABC)」を発表したが、TDABCは、従来インタビューやアンケート調査を行わなければ判明しなかった活動別の資源消費額を、予め設定しておいたキャパシティ費用率と時間方程式を用いて決定することに特徴がみられる。

こうした原価計算の利用目的を実行可能性に求めた場合、議論は原価の同質性(原価の括り)に集約される。TDABCの場合、原価の同質性を「時間」概念に集約させているところに特徴があるが、この原価の同質性を「時間」に集約させる点につき、筆者はメディケア(米国高齢者医療保険)の医師の技術料に対する基本単位となるRVU(相対価値単位)を用いた病院原価計算であるRVU法に着目した。つまり、RVU法の基本単位となるRVUが時間的要素を重視しているように(住居広土編訳[2000]『新版 アメリカ社会保障の光と陰』、144頁)提供されたサービスに係る時間の同質性を設定する点で、TDABCとRVU法は共通しているのである。

また、同質性を時間枠で捉える点は、フランスの付加価値単位(UVA)法でも同様であり、近年では換算係数(Équivalence)

を用いてTDABCとUVA法を関連づける試みがなされている(Gervais, M. ed.[2010], *La Comptabilité de Gestion par les Méthodes d'Équivalence, Economica*)。

2. 研究の目的

以上の研究背景を踏まえ、本研究の目的は、病院原価計算の利用目的を保険者機能との関係から整理し、時間概念に着目して原価計算の日仏米の国際比較の観点から病院原価計算の適応可能性を検証することとした。言い換えれば、保険者機能が強化される前後で医療制度の仕組みが変化し、それに伴って病院原価計算の利用目的が変化する際に、配賦基準としての時間概念の役割の有用性を分析することを目的としている。

本研究は、病院原価計算の利用目的を保険者機能の強化との関連で分析し、さらに原価計算に係る導入コストと運用コスト側面を「時間」に着目することで、原価計算の管理可能性・実行可能性にまで言及する点に、学術的な特色・独創的な点がある。そこで掲げる課題は、保険者機能と病院原価計算の利用目的の関係についての研究、

日仏米の時間ベースの原価計算を対象とした国際比較研究である。

本研究が対象とする原価計算は、時間主導型活動基準原価計算(TDABC)と相対価値尺度法(RVU法)の2つの病院原価計算とフランスの付加価値単位法(UVA法)である。こうした原価計算に係る導入コストと運用コスト側面を「時間」に着目する動向を、保険者機能の強化を背景とす

る病院原価計算の視点から分析することは、病院原価計算研究のほか、TDABC の適応可能性を再考する一手段となりうる。

3 . 研究の方法

各国の医療保険制度および医療保険制度改革についての動向を詳細に把握する作業と並行しながら、米国病院経営・病院原価計算に関する文献収集を行った。

また、保険者機能など医療経営に関する実際の現場状況については専門家のアドバイスを国内外問わず定期的に受ける必要がある。そこで本研究では、末盛泰彦氏（元国立病院機構九州医療センター麻酔科医）や下関市中央病院のほか、医療マネジメント学会をはじめとした医療経営に関する学会に積極的に参加することで、情報収集に尽力した。

4 . 研究成果

本研究を遂行することによって、米国の病院経営および病院原価計算に関する文献調査を中心に、保険者機能が強化されるなかで提唱された「価値重視の病院経営（Value-Based Management）」において、病院原価計算を用いて医療提供者と病院経営者に共通の情報基盤（common information platform）を構築する必要性を明らかにできた。

そして、そこでは時間主導型活動基準原価計算（TDABC）や相対価値尺度法（RVU法）といった時間主導型の病院原価計算を用いることの有用性を明らかにした。とりわけ、TDABC をマイケル・ポーターの価値連鎖（Value Chain）との繋がりから論

文を執筆することができたことは、本研究における大きな前進である。

本研究の研究成果は、共著「手術室の安全のための戦略的マネジメント」安全医学（日本臨床医学リスクマネジメント学会）第8巻1号、単著「時間ベースの原価計算の適応可能性 —病院原価計算の分析を中心に—」九州経済学会年報（九州経済学会）第50集2012年12月、単著『米国における病院原価計算の発展と価値重視の病院経営』博士論文（九州大学大学院）2013年2月で公開している。

次に、時間要素を重視した原価計算は、病院に比較的馴染みやすいことが判明した。例えば、クリティカルパスなどを導入し、パスにかかる時間を集計する際に合わせてコスト計算が可能となる点でいえば、TDABC は病院に受け入れられやすい原価計算手法といえる。これは RVU 法についても同様である。ただし、RVU 法に関していえば、日本では RVU を設定するノウハウもデータ蓄積もされていない現状から実行可能性が低い。そのためにも、RVU 法や TDABC について実際データを用いた研究を踏まえる必要がある。

また、最終年度に国立木浦大学校（韓国）で本研究の成果報告を行い、意見交換を行った。結果、高齢化が進む韓国においても医療経営に対して関心が高く、それゆえ病院原価計算に対する関心が高いことが確認できた。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3 件）

• 末盛泰彦、足立俊輔、丸田起大「手術

室の安全のための戦略的マネジメント」『安全医学』第8巻1号、日本臨床医学リスクマネジメント学会、pp.4~9、2012.9。(査読付)

- 単著「時間ベースの原価計算の適応可能性 —病院原価計算の分析を中心に—」『九州経済学会年報』第50集、九州経済学会、pp.33~40、2012.12。(査読付)
- 単著『米国における病院原価計算の発展と価値重視の病院経営』博士論文(九州大学大学院) pp.1~209、2013.3.

〔学会発表〕(計 2 件)

- 日本管理会計学会九州部会(第39回)第1報告、九州産業大学、論題「米国病院原価計算の発展と価値重視の病院経営」2013.4.20.
- 東アジア経済研究所国際学術シンポジウム第5報告、国立木浦大学校(韓国)、論題「The Applicability of the Time-Driven Activity-Based Costing for Health Care Organizations」2013.9.6.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

足立俊輔 (ADACHI, Shunsuke)

下関市立大学

研究者番号: 30615117

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし